

交流ひろば

◎ 第25回あじさいコンサート

1月13日(月・祝)、二胡同好会は中華同文学校の生徒さん、国際民族楽団の方々と第25回あじさいコンサートに出演しました。神戸文化ホールの大舞台での演奏は迫力がありました。「春節序曲」という難曲に挑戦し、二胡以外の中国楽器とのコラボを楽しみました。(二胡同好会代表 福岡亮子)



第25回あじさいコンサート

◎ 関係団体との交流

1月11日(土)、KCCにて神阪京華僑口述記録研究会例会に参加。神戸華僑歴史博物館の二宮一郎さんによる「蔡勝昌館長への聞き取りについて」などの報告を拝聴のあと、南京町君悦飯店で新年会。移情閣友の会の新春のつどいにお誘いしましたら、ありがたいことに、4名の新規入会をいただきました。このご縁に感謝します。(後藤みなみ)



南京町君悦飯店で新年会

◎ 旅行関係団体代表をご案内

1月17日(金)、兵庫県インバウンド協議会の代表による依頼で友人の旅行プロデューサーを、孫文記念館をはじめ、兵庫県立舞子公園にある武藤邸、木下家住宅、海上プロムナードなど、大正、明治、昭和、平成の建築物へ案内しました。その日は、友の会に入会をいただいたうえ、お話の中で兵庫県の委託で通訳ガイド研修会を主催されていることがわかり、この縁により来年の実地研修に孫文記念館を取り入れると喜んでいただきました。大変うれしく思います。(後藤みなみ)



孫文記念館案内



舞子公園施設案内

◎ 中国文化同好会例会(1月・2月)

中国文化同好会1月例会(1月19日)に13名が参加。講師は青木俊一郎さん(神戸社会人大学学長、日中経済貿易センター相談役)を迎えて、「孔子の思想と文化論」について、大変興味深い講演をしていただきました。

また、2月の例会は16日(日)に重元勝さんをお招きして、「ボランティア三昧は中国からの引き揚げ体験が遠因」と題した講演に12名が参加。コープこうべを定年後、ボランティア三昧の人生を送られている実体験からの話は心を打たれました。最後に会員による二胡演奏が花を添えました。講演後Tio 舞子RIA でのお茶会では、講師のご友人もみえて、色んな意見交換ができました。その後、新規入会をしてください、ありがたかったです。(後藤みなみ)



1月例会にて一青木俊一郎さん



2月例会にて一重元勝さん

孫文記念館開館35周年記念して 2020年特別展を開催中

テーマ：ひょうごの人々と近代中国
～孫文記念館をつくった人
2月29日(土)～ 当面開催中
孫文記念館二階閲覧室 是非ご覧ください。

5月31日会計監査のあと、2020年特別展へ。孫文記念館、移情閣友の会ともに力を注いだ先生方の写真が展示されており、在りし日のお姿を偲び、懐かしさをご指導いただいたことを思い起こし感無量でした。発足時、河合副会長、島田さんと私の女性3名で、孫文記念館と友の会の事務を兼務で行っており、新鮮な意欲で取り組みました。苦勞が結果につながり、楽しく過ごせました。感謝しかありません。主任研究員の蔣海波さん、この企画をご担当される皆様、ありがとうございます。(喜多村クニ子)



特別展展示



2020年企画展チラシ

行事報告

2020 新春のつどい食文化交流(2020年1月26日)

今年の新春のつどいは、1月26日、友の会会員のお店でもある東栄酒家にて開催しました。今年は34名が参加。食文化交流では、末松信介衆議院議員からの祝電を披露のあと、特別サービスの美味しい中華料理を堪能しながら会員間の親睦と交流を図りました。南京町広場の春節祭は、店のベランダからも見学でき、おおいに盛り上がりました。食事のあと、神戸華僑歴史博物館陳來幸副館長に「近代中国の総商会制度～繋がる華人の世界」と題して講演いただきました。続いて、場所を神戸華僑歴史博物館へ移動し、春節特別展「閔帝廟普度勝会展」を見学。陳先生の特別解説で

理解を深めることができました。番外編のお茶会にも14名の参加があり、充実した楽しい一日を過ごすことができました。みなさまに感謝します。(後藤みなみ)



新春のつどい



神戸華僑歴史博物館見学

「近代中国の華僑総商会制度：繋がる華人の世界」

兵庫県立大学国際商経学部教授 陳來幸

移情閣友の会 2020 新春のつどいで話をすることになりました。表題のタイトルで2016年2月に京都大学学術出版会から出版した自著の内容を紹介する機会を得られたことにまずは感謝します。神戸華僑の3世として生を受けて好きな歴史研究と教育に従事してきましたが、私にとっての中国近代史研究の入り口は20世紀初期の上海租界。そこで活躍した買弁出身で上海総商会会長の寧波人虞洽卿でした。虞氏一族から息子の嫁をもらったのが、現孫文記念館の主で日本の華商として最も成功を収めた同郷の呉錦堂。その繋がりを知った時の興奮はそのまま研究の推進力になりました。平行して進めてきた華僑研究が中国経済史の根幹部分でしっかり繋がっていることを確認できたのが中華総商会という組織です。この点に狙いを定め、30年来中国国内の商会制度とその外延としての中華総商会を研究してきました。現在副館長を務める神戸華僑歴史博物館は1909年に発足して現在に至る神戸中華総商会の文化事業の一環です。表題は一見堅苦しいですが、私にとってはきわめて個人的かつ主観的な動機から着手した研究だということがわかっていただけるでしょう。

中国における中国研究に対して自分色が出せたとすれば、それは日本人と日本要素への注目にあったと考えます。1904年を起源とする中国の商会とは日本の商業会議所制度に倣って中国風に定着したもので、それまでの出世の道(1905年科挙試験の廃止)が絶たれた中国人エリートにとり、あらたな社会上昇のしくみとして動いたのです。それゆえに、①政府官印「閔防」による権威付けと階層性が存在し、②準行政的機能、とくに海外においては旅券や商人証明書を発行する等

の重要な役割を發揮し、③ロシア沿海州を含む北東アジアから南は東南アジア、オーストラリアまで、東はアメリカ大陸から西はアフリカマダガスカル島近くのレユニオン島に至る、強力かつ網羅的なネットワーク機能の特徴とする独特な制度として立ち現われたのです。当然のことながら、その背景として指摘できるのが、世界に広がる華僑社会の存在でしょう。

改革開放後の1991年から二年に一度開かれ、昨年のロンドン大会で15回を数える世界華商会議は、清朝末期に蒔かれた中華総商会の種が現代に開花したものであると考えられます。年齢を重ねるごとに自分は何者なのかを問い、様々な国に点在する(旧)中華総商会や中華会館、中華学校を訪れる機会が増え、すべてが自分と繋がりのあるものとして認識できるようになりました。今日の話が現在の皆様とも密接な関係があることなのだ実感していただくために、後半は韓国の仁川、アメリカのサンフランシスコやカナダのバンクーバーとヴィクトリア、オーストラリアのメルボルンの中華会館や中華総商会、中華学校、各種会館、華僑博物館などの写真を見ていただきました。こういう知識があると、旅が一段と楽しいものになること、間違いのないでしょう。



陳來幸先生



陳先生講演のようす